

平成 26 年度第 6 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 26 年 9 月 26 日（金） 18：30 ～ 20：25

【場 所】 厚田保健センター 1 階 多目的ホール

【出席者】 11 名（15 人中）

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐 藤 勝 彦	○	委員	小 山 玲 子	○	委員	前 田 和 也	
副会長	渡 邊 教 円	○	委員	今 光 江		委員	美 馬 康 子	○
委員	大 黒 利 勝	○	委員	柴田 志寿子		委員	盛 重 栄 司	○
委員	小笠原 英史	○	委員	柴 田 肇	○	委員	築 田 敏 彦	○
委員	河 野 すみれ	○	委員	高 橋 敬 二	○	委員	吉 田 美 香	

※正副会長を除き、あいうえお順

支 所 ～ 尾山支所長

事務局 ～ 高田課長・相原主幹・渡部主任・永澤主任・寺内主任

(地域振興課)

地域おこし協力隊 ～ 小島隊員

【傍聴者】 0 名

【次 第】 1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 情報交流（リラックス タイム）
・地域の「ちょっといい話題」交流

4. 報告事項
・さっぽろオータムフェストについて
・防災関連について

5. 協議事項
・住民主体による新たな地域づくり
～地域、住民を巻き込むための新たな手段、方法を探る～
・厚田区地域協議会のこれまでとこれから（仮称）の冊子制作について

6. その他
・次回会議の日程について

7. 閉会

1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。地域協議会に入る前に、柴田志寿子委員、今委員、前田委員、吉田委員の4名から欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。

平成26年度第6回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

佐藤会長： お晩でございます。いよいよ秋も深まって参りまして、これからは恒例となる厚田の寒い冬がやって来ると思いますが、今は丁度、秋という事で農作物の書き入れ時となりまして、大雨の影響もあり天候も不順である為、その辺はどうなのかと素人考えですが心配しておりまして、厚田は農業で多方面からも注目されておりますので気になったというところです。そういう事で秋の深まりはそういう実りの秋という事と同時に、この協議会も実りある会議にしていきたいという二つを掛けまして、今日もまたよろしくお願い致します。

3. 情報交流（リラックス タイム）

4. 報告事項

- ・ さっぽろオータムフェストについて（厚田支所地域振興課高田課長から口頭説明）
- ・ 防災関連について（厚田支所地域振興課相原主幹から口頭説明）

5. 協議事項

・ 住民主体による新たな地域づくり

～地域、住民を巻き込むための新たな手段、手法を探る～

・ 厚田区地域協議会のこれまでとこれから（仮称）の冊子制作について

佐藤会長： 今日は、地域を巻き込んで厚田を活性化させる色んな手段や方法を探るという事で、今までも何回か続けてきた訳ですが、前回、厚田区で行われる色々なイベントですとか行事も含めまして、やはりこの地域協議会だけでは無く各自治連合会も含めて、自治会、町内会との連携が極めて重要で不可欠だという事で、単純に回覧版を回してイベントへ参加して下さいというのではなかなか参加していただけないので、ある時には充て職と言われても仕方ありませんが実行委員に直接なっただき、仕方ないと思われながらもそれに関与していただくような仕組みを作っていったら良いのではないかというご意見もいただきました。この自治会や町内会との関係を緊密にしていくという事が大変重要であり、その為にはどうしていくべきかというのを考える必要があるだろうという事で、今日は19時30分から厚田区五連の会長会議が総合センターで開催されておりまして、今日の協議事項2点が終わるあたりでそれらも終わる予定をしており、この地域協議会と五連の会長さんと一度顔合わせをし、今後、そういう事で連携を図っていきましょうという事で、今、それぞれの地域でどんな事が問題ですかとストレートに聞かれまして、話が言いっぱなしになってしまう可能性もありますので、地域でこういう風に困っていると言われても、それを具体的に解決するとなると、行政の方の関係や予算の問題がありますので、おいそれとはいかない訳で、まずは五連の会長さんと地域協議会の連携をこれから深めていき、イベントや行事などの色んなところで地域の人を巻き込みながら、厚田を活性化し

元気にしていこうという志を同じ方向性で話し合い、持っていく必要があるのではないかとするのは、協議会委員の皆さんのご意見にもありましたので、短時間ではありますが今日はそのような機会になればと思っております。それで、あとは地域の中に具体的にに入りそういう話しをする訳ですが、そういう場合でも各自治会には予め地均しをしていただき、地域協議会委員の皆さんのご意見なども反映する形で、地域の意見を吸収しながらそれをまた地域協議会でまとめ上げていき、それをまた市に提案していくという風な形になるのではないかと思います。何回かこの地域を巻き込む手段、方法を考えていただきましたけれども、まずは自治会、地域との連携を深めていく一つの方策として、今日はそれをやりたいなと思っております。当然、この地域協議会も各自治連合会からも一組織の代表として送られてきておりますけれども、もう少し密接な関係を作っていく必要があるという事で、今日はそれを15分か20分やりたいという風に思っています。

それからもう一点、皆さんに協議していただきたいのは、合併してから来年の9月でこの地域協議会は10年目となる訳で、前々回の地域協議会でこの地域自治区をあと5年間延長するという話があったと思いますけれども、そういう事で地域協議会はあと5年延び全体で15年となる訳ですが、そのあとは解らない訳でやはりこの合併後、この厚田区が何らかの形で住民の意見を吸い上げながら行政に反映するという何らかな仕組みが必要な訳で、この地域協議会は時限立法となり期間が決まっておりますので、そういう意味でもやはり自治会との連携を深めていきながら、最終的には地域や自治会がそれを連携して活性化するというのが絶対に必要になってくると思い、良い時期なのかなと思います。そういう事も含め10年を境にこの地域協議会の歩みと言う事で、この地域協議会が10年間の間に地域の活性化の為にどんな事をしてきたのかという事で当然として反省もありますし、七つの団体が立ち上がり色々な地域の活動しておりますけれども、残念ながら多くの方々に充分認知されているというのが言えない状況で、そういう意味でも地域協議会が10年間で皆さんに頑張っていたき、厚田を活性化しようとしてきたものを一つの冊子にまとめ挙げていく必要があるだろうと思っております。どうして今日この提案をしたかと言いますと、来年度に向けて制作する為には予算計上が必要となりますので、提案をさせていただきました。提案のところに書いてありますけれども、厚田区地域協議会のこれまでとこれからという事で10年間の歩みだけではなく、これからの厚田区をどういう風に活性化していくかというこれからの提案をそこに含めて厚田区の皆さん達にそれを提案して、そういう事であったら自分達も参加して、ボランティアでも何でも良い訳ですが参加してやってみたいと思っていただけるような冊子作りをしてはどうかという提案がここに含まれております。ですから単に10年間こういう事をしてきましたというものだけでは無く、それから後の厚田区の住民の皆さんが一致団結して活性化していく為には、こういう協力の仕方があるというような事をメッセージとしてこの中に書くという事です。それらの二つの趣旨を含めてこの冊子を制作してはどうかという提案となりますので、皆さん達のご意見をいただきたいと思います。

美馬委員： 一般の厚田区の方で知っている方は少ないと思います。何となく名前は知っていても何をしているのかは解っていないと思いますので、お知らせするのは良い機会だと思います。

佐藤会長： 地域協議会の趣旨と言うのは地域住民の声を行政に反映するという事で、大変大きな目的や目標を持ってやっている訳ですが、その為には知っていただくという事が重要だと思っております。

築田委員： 冊子を作るという事ですが、これは厚田区の住民に対して作るという事で、浜益区は浜益区でという風に考えるのだと思われ、予算を果たしてどの程度付ける事が出来るのかというのが一点と、これまでとこれからという部分の冊子になるという事ですと、これからどうするかという部分が極めて難しくなるのではないかなと思ひまして、この二、三回を見ていると話しが堂々巡りしている感じを受けておりまして、今日は来ておりませんが、私が委員になった頃には議員の方も傍聴席にも来ていたりして、威厳のある会だと感じておりまして、我々が何かを発言する事で大きく広がるのかという期待をしていた訳ですが、結局この中では何も決められないで堂々巡りをしており、議事録についても議事として残る部分と残らない部分があると思いますが、私の発言をしたところも後になって読み返してみるとそういう意図で発言した訳では無く、こういう前置きがあってああいう話しをしたハズなのという事で前置きが削除され、話しが堂々巡りしチンプンカンプンなところだけが議事録に載ってみたりしている事があつたりして、こういうのを冊子にして本当に良いのかなと言う気がしないでもないで、今、美馬委員も言うておりましたけれども、地域協議会と言うのは本当に何をしているんだろうという事で、自分で地域協議会に入っていながら何をやっている会何だろうというのは想っており、入った時には地域協議会は何も決められないんだという事で、皆の意見が出てそれに対して地域協議会として、それはどうバックアップ出来るかという事で、予算を付ける事が出来るのかかそういう事なので、地域協議会は何を言っても良いけれども、何も決められないんだよという話しを最初にされている訳で、何回も堂々巡りみたいな話しをしても仕方ないので、前回の話しにあった自治会の人も来てもらってという話しで、もう少し先に話しが進むと期待はしており、話がまとまらず申し訳ありませんが、今までとこれからというだけの冊子だったら、あまり冊子として意味が無いのかなという気もしており、もう少し話が煮詰まってという事で5年間延長し15年間迄と延びて、自治会も入ってきて話しがまとまれば、皆が期待出来るような冊子になるのかなという気がしますけれども、今のこの10年だけで冊子と言うのはどうなのかなという気がします。

佐藤会長： はいありがとうございます。率直なところを言ってしまうと堂々巡りと言うのは、正に堂々巡りでありまして、そういう事をいうと一回目からの全てが堂々巡りとなってしまひまして、本来的には地域協議会委員が先ほど言ったように住民の声を地域づくりに反映するという目標は最初からある訳で、委員になった方は必ず最初に目を通しておりまして、私も含めてとなりますが地域の課題や問題をその委員がどれ程吸い上げてきて、ここにぶつけどうにか出来ないのかという事をするものでありますが、私も皆さんもそうですが忙しいので、地域の皆さんの細かな声を拾い上げてきてそれをまとめて、地域でどうするんだという事でそれぞれが提案をし、それをまとめ上げていくという事で、時間はかかった訳ですが、例えば、一つの例を挙げるとバスの回数も少なくなってくるとか高齢化するという部分で足の問題はどうするんだという事が挙がってくる訳で、それじゃどうするという事でライフサポートが立ち上がった訳で、今の七つの団体は全てこれをやっている訳で、地域で困っている事をどうすれば良いんだという事で、必ず委員から提案された事しか作れない訳で、わざとではありませんが堂々巡りをしながら作りあげて来た訳で、委員の中から今言ったような事が挙がってきて、さあそれでは皆さん達でこれはどうするんだと言った時に、それでは今までの七つの団体以外に何かを立ち上げないと地域の将来が困るぞというのが挙がって来てさあどうするなる訳であり、それが挙がって来ないと今言ったように、ずっと堂々巡りをする訳でありましてこれが悪いという訳では無く、私はそ

という時期もあっても良いとは思いますが、その内にやっぱりこういう問題は重要だよというのが、誰かから挙がってくる時に委員の皆さんがそれは大した事が無いよなと思った時には、議論があまり深まらないうちに雲散霧消してしまう訳で、今、自治会との関係性を深めて連携をしていき我々委員が、地域や自治会とどんな連携を保っていくのかという事を本当に重要なら考えてくれると思いますので、そしてどんどんと連携を深めるような方策や手立てが皆さんの意見で出てきて、それをここでまとめて必要な予算であればそれを付けるのも良しで、予算が無くてもボランティアも含めて皆で協力すれば出来るという形であればそれをやっていくのも良しで、築田委員は批判と言いましたが全く批判では無く、そういう堂々巡りのような時間を設けながら、築田委員も歯痒いなと感じていると思いますが、その辺りは皆さんも感じているところであり、その時にそれではどうするかという事になると思いますが、この地域協議会の良いところは誰かがやるだろうという風に、第一期の委員からも想っていない訳で、先ほども言いましたが七つの団体はだからここから立ち上がっている訳で、もう仕方ないとかやるしかないという事で地域協議会から独立しその団体が成長する訳で、こだわり隊を例にしても凄いなと感じる訳ですが、独立して今では色々な所のイベントにも出かけて行っており、結局は利益を生むという事です、その前に厚田を知ってもらう為の方策や工夫をどんどんと彼らが考えてやってくれている訳で、そういう事で委員の方々は自治会や団体から出ておりますので、そういったところの困っている事を挙げてもらい、地域でこんな困っている事があるからと率直に挙げてもらえるとそれはどうするんだと我々が新たに考える方法、方策が出て来ると思います。地域をどうやって元気にしていくかという事を個人でも団体の代表でも良いので、そういう課題をぶつけていただければある時に堂々巡りに楔が打たれて、そういう問題があるよとなると思います。私ばかりが提案をしてもマズイのですが、もう少し言わせていただくとこれまでとこれからという事でこの冊子には、前に皆さんのお配りしたと思いますが、海士町の問題は全てここから始まっており、一人でも出来る事、それから家族何人かで出来る事、或いは友達を誘って十人やそこらで出来る事というのを全て提案しており、ただあの冊子も提案しているだけでは誰も何もしないので、こういう地域協議会だとか地域の自治会や団体がそういう事をどうするかと、その冊子を元に議論する訳で、我々の地域で若者にこの冊子にあるようにやらないかという事で立ち上がるという事で、そのきっかけを作っている訳であり、独りでも出来る事だったらこんなボランティアだったら出来るのではないとか、厚田には素晴らしい自然遺産がたくさん残っているので、これを知ってもらって誰かにここに泊っていただきたいと思いますが、宿泊する所が何処にも無いので民宿が出来るような所は無いでしょうか。多少の基金を使って、個人の家だけれどもそういう民宿が出来るような所を造ろうではないかという事で、例えば、農家で広い家があったとして、一室か二室で民宿をしてくれるというような人達に立ち上がってもらう事で、厚田に行っても泊まれるよという事であそこの民宿の晩御飯が美味かったよなと言うような厚田の新鮮な物で、そういうような事を地域の人にやってもらうような呼び掛けを何らかな形でしなければいけないかなという事で、その時に私達がやってみないかいという事で、誰か個人が個人に言ってもなかなか難しいと思うので、そういうバックアップがしっかりとしているところがそういう物の提案をし、やってくれると良いなと思いますけれども、委員の方々の検討でもうちょっと良い方法で、築田委員が言いましたようにもう少しこういう事の準備が出来るまで待とうとか、その代わりただ待つのではなくて、そこにこういう事をやってみないかとかという提案何かをいただいたら、より建設的にこの冊子をきっかけにしてこういう事が出来るのではないかとかという事です。

大黒委員： 七つの団体の中で自分も二つ位入っている訳ですけども、資料室の事について経過を見ますと、年間入館者数も本当に少なかった訳で、何とかしようとして「子母沢寛を読む会」という事で人を集め、役場の人が中心となってどうしたら良いだろうという事で過程がありまして、色々工夫して凄く良い事をやっております、今年も実際に資料室を見た人から吉葉山の大相撲の本を何箱も贈られて来た訳でありまして、資料の少なさを感じての事かも知れませんが、これでまた吉葉山の資料が増えて広がっていく事で、新たな希望が出ておりまして、こういうプロセスをまとめた物も時々出ておりますけれども、一括してまとめる必要を感じており、学校とかであれば年に一度はまとめる訳であり、地域協議会も10年間も経過したのであれば、ここでしっかりとまとめて展望をしっかりと持ってやらなければ、地域協議会の人達も活動が出来ないと思いますし、励みが出来ないと思いますので、是非、今までの資料をまとめるだけだと思いますし、展望も書くだけなのでシステムは凄く良いなと思っていたのでお願いします。

佐藤会長： 今の大黒委員が言われた事で、幾つかの色々なご意見があった訳で、資料室というのはあんな四人の人の展示をするのではなく、昔展示していた網元の網だとかここは鯉の町だったのだから、そういう物を展示しなければならないという考え方の人もいますが、大方の人達は資料室と言うと郷土の歴史を感じさせるような物の展示が必要だと思っていられるんですが、一方ではこれからの資料室と言うのは見てもらわなければ価値が無いので、何ば歴史の物がたくさんあっても100人や何十人しか見ていない資料室か、今、何百人の人が見る資料室かという資料室と言うのは、観てなんぼの世界だと思いますので、そう考えた時にそれを決定しながらどんなプロセスでも、今の資料室の展示が出来ているかという事のそこを知るという事も必要になり、そういう方法もあるんだという事を学んでいただくという事で、ある意味では価値のある事だという風に思われます。大黒委員はそういう一つの区切りをする事が重要だというご意見です。

柴田(肇)委員： 今出てきた複合施設に関して関連するのですが、今やっている複合施設をどのようにしてやっていくかという事で、色々な角度から皆さんの意見をいただく会合を何回かやっている訳ですが、私もそこに出ていて感じるのが、地域協議会のメンバーでもそこに出ていた方はいらっしゃる訳ですけども、極力、地域協議会のメンバーにも時間を何とか作っていただき参画していただきたいなという感じを受けております。様々なご意見がある訳ですけども、我々は地域を良くしようという事で皆で協議をしてやっていこうという方向性のものだと思う訳ですが、それがどうも協議になっておらず、そういう事でただ意見を言っただけで市の方の見解はどうかというような感じで、所謂、住民の側と市の側という感じであり、住民が言ってそれに対して市が答えるという形になっており、そういう感じでは進まないのではないかなという感じがしておりまして、それで一緒に作っていくというスタンスで皆と話をしていけないと、声の大きな人の意見に引きずられたりして時間だけがかかり進まないと言う印象を受けておりまして、石狩市の掲げる協働と言う意味からすると建設的に前へ進んでいくような意見を皆さんで考えて出していかないと全然進まないのです、ですから地域協議会メンバーとしてもなるべくそちらに参加していただいて、一緒に考えてこのようにしたらどうかというご意見を出していくようにしないと、この複合施設と言うのはとても大切な施設であり、資料室は言うに及ばず様々な機能を持たせて要するに今までにない、多目的な言わばモデルケースのような試みなので、ここでやっぱり成

功してこれは凄いあれだという事を作っていかなければならないような役割もあると思いますので、何か凄く良い複合施設を造る為には皆で意見を出し合ってやっていきたいなとずっと思っているの、なかなかその思いが思い通りにいかなくて、地域協議会としても皆さんで前に話したように色んなご意見を持っていると思うんですけども、どうもそういった事を発言する人も少ないので、何とかそういう風にしたいなと想っているんですけども、この複合施設に関して良い物が出来ると色んな意味で、本当に開けて来ると思いますので、お忙しいとは思いますが何とか参加していただけたらと思っております。

佐藤会長： というお願いになりました。今の冊子の問題から、要するに地域住民を巻き込む手段や方法で何か良いものが無いかという事を考えながらやって参りました。一つの結論としては、柴田委員が今おっしゃられたように複合施設と言う一つのシンボリックな集約的な複合施設をそこに造る事によって、札幌或いは道内から色んな方を集めながら厚田を知ってもらうという事で、それは結局、最終的には地域全体に潤いを持たせてくれるだろうという期待を持ちながらそれを造ろうとしているので、今、柴田委員から言われましたように住民の考え方と言うのは色々ありまして、活性化して厚田を何とかしようという想いは皆さん同じなので、その方向性が多少違っていたりずれたりするので、それらを調整しながら良い物になるべく造ろうという総意としての苦労は当然としてする訳ですけども、何と言ってもその間に立って苦労をしているのはやはり役所の方でありまして、何と言っても矢面に立っているのはいつの時代も役所であり、住民の税金を使って何かをするからと住民はすぐに思ってしまう訳ですけども、先ほども言いましたが“協働”と言うのは「行政と住民が一緒になって何かをやり遂げようという新しい思想」と言いますか、考え方なものですからなかなか地域住民の人達に十分に理解や納得していただいているとは、協働の精神は想わないので、お題目としての協働の精神は皆さんもよくおっしゃる訳ですけども、これはどういう事かと言いますとハッキリと言って自らす事ですので、自分がやらなくても結局、誰かがするだろうと思っている誰かと言うのは役所であり、これはもう協働でも何でも無い訳で自らやろうとする時に、そしたら役所も一緒にやってよというのが協働という事になります。そういう事で本当の精神がまだまだ浸透していないと言いますか、今、柴田委員が言われましたようになかなか大変だと思います。ただ、あまり妥協しますと折角の複合施設が駄目になってしまうという危険性もありますので、妥協の産物の建物と言うのは決して良くなって後で後悔する訳で、地域協議会はこの複合施設を造りたいという意思や目的を必ず達成させるように紆余曲折しながらそこへ持っていくという事をやらないと駄目であり、何とか皆さんの協力を得ながらそれは行ないたいと思っております。

この冊子の予算と言うのは、いつまでに決めれば良いものでしょうか。

高田課長： 11月20日前後には出さないといけないと思います。

渡邊副会長： 大黒委員の話しにありましたように10年間で何をしてきたんだというのは、一度総括すべきだと思います。どういうニーズがあって何が生まれ、何があるという事も大事な事だと思いますし、これからどこへ向かっていくのかというのもとても大事な事で、複合施設然り、学校問題然りとまだまだ課題はたくさんある訳で、10年の節目と言う事で一度、総括をすべきと私も思いますが、今の予算がどうこうという話しは私も初めて聞きました。

盛重委員：　　そこで私も一つ聞きたい訳ですが、冊子の方の部分について、結局どこに向けて発刊するイメージでいるのでしょうか。

佐藤会長：　　厚田区に向けてとなります。

盛重委員：　　厚田区民全員に対してなのか。

佐藤会長：　　全員か全戸というイメージです。

盛重委員：　　厚田区民に地域協議会が今までこんな事をやっていますとか、こんな事をやりますという情報を周知する為の冊子になる訳でしょうか。

佐藤会長：　　この辺についてもご検討いただきたいと思うところで、先ほども言いましたが地域協議会は10年となる訳で、たまたま法的な問題とかで15年となった訳ですが、その先があるかどうかは解らない訳なので、そういう事を考えると元々は合併後10年という期間でこの地域協議会が作られたのでそこを総括する訳ですが、それは組織としては無くなる可能性もあるので、厚田を活性化する為にどういう風にこれから住民がすれば良いかという住民への提案となりますので、地域協議会が何かをするという事では無く、たまたま地域を活性化する為の手立てとか手法を冊子にして全部に配る訳で、それは役所がやったり誰がやっても良い訳ですが、ただそれは地域協議会10年という事で委員の人達が、その為に頭を絞ってやってきた訳ですから、そういうのもやっぱり一つの財産、遺産としてそこに組み込んでいくというのはあると思います。

渡邊副会長：　　むしろ今言った自治会の皆さんからの掘り起こしニーズなんかもあるのであれば、各地区からこういうニーズがあるという。

盛重委員：　　自分としては聞いていて3パターンがあるのかなと思い聞いていた訳ですが、今言ったように厚田区の住民に今までやってきた事やこれからやろうとしている事を周知する為のものという意味合いが一つと、そうでなければこの地域協議会の自分達の為に、今までやって来たデータの集約というところと、仮にこの協議会が無くなっても代替的なグループなり何なりが出た時に活用してもらう為という意味合いが強いのか、若しくは、海士町の資料があったと思いますが、ああいう感じで対外的にこういう活動を厚田はやってきたという部分をPRまではしませんけれども、それで海士町の資料をうちらも逆に使いましたが、このような形で使っていただけるような資料づくりというような意味合いのその三つの内のどれかなのかというのが聞きたかったので、それでいけば地域住民に今までやってきたもの、若しくはこれからの方向性なりという知らしめて地域協議会の存在意義をある程度示すようなものになるというイメージです。

高田課長：　　基本的な考え方として、地域協議会が何かをやってきたという冊子では無く、これまで地域がこんな事をやってきたという事を伝える冊子だと思います。これからの部分については、地域住民も昔の流れは行政依存型だったものが、自分達で考えて自ら動くという流れになってきたという事で、将来に向かって一人でも多くの方が地域を活性化する為に関わってもらえるような投げとしても必要と… 具体的にああいう事をするんだとかこうい

う事をするんだという事を書くのではなく、地域住民一人一人がこういう風な意識の中で地域を活性化していくというような動きや、そのきっかけになる冊子にすべきと私はイメージしております。

盛重委員： 自分が言ったのは三つの方向性だけで、使うデータと言いますか資料的には全く同じ物であっても、作り方や発信の仕方が変わってくると思いますので、どの辺を想定するのかという事で今の中の一つなのか、二つを引っ掛けるのかは解りませんが、どういう風に想定しているのかなというのを聞きたいなと思っただけです。

佐藤会長： 盛重委員が聞きたいなというのもう一つは、嫌々、こういう方が良いのではないかなというような感じで、たまたま地域協議会がそれをまとめ上げているだけであって、だけでも出来上がった物を住民の人達や各世帯でも良いのですが、見た時にこういう事をやっても良いよなとかこうやったら元気になるよなというような感じで、今まで地域協議会からいくつかの団体が独り立ちしてやっているような事を地域協議会がやっているのでは無く、そういう団体がこういう活動をしているという事を知ってもらう。ただ、それを上手にまとめ上げてこういう風にやっているなら自分達もそういう事が出来るよなというような地域を活性化していくモデルケースがこれまでで、これからはあなた達ですよという感じ。

盛重委員： 今、職場が当別町なので特に思う訳ですが、この地域協議会から生まれ出て来たグループなりの生い立ちについて、言い方を変えると冊子にまとめるという事になると思う訳ですが、他のところが見たら参考資料としては凄く良い物が出来上がるのかなという気が正直しているので、だから作るとしたらどういう風に作っていくのかという方向性だけで大分、中身が変わってしまうのかなという気もしていてどっちの方なのかなという気がします。

佐藤会長： 目的はただ一つで、地域住民が元気にしようを思ってくれるようなものですが、それも自分が参加しなければ地域は全然元気にならないぞという風に思ってくれば、それはそれで目的の達成かなと思います。ですから、たまたまそれを見て他所の地域や他所の市町村でこれは参考になるなと思っていただいても良い訳ですがそういう目的では無いです。

築田委員： 地域協議会の10年間の中で七つの団体が立ち上がったよという事で、こだわり隊とかの話しにもあったように色々な活動をしておりまして、私もアクアレールの方に携わっており二回目までが終了し、これから三回目に向けても頑張ろうと思っておりますけれども、果たして皆がアクアレールに対してどう思っているのかというのが、なかなか吸い上げる事が出来ない状態で、本当に地域の皆が喜んでくれている組織なのかなというのが自分の中にもありまして、ライフサポートの会が出来たという話しにしてもライフサポートを利用している人は、良かったなと想っているかも知れませんが、利用していない人からするとどんな団体なのかも解らないという部分もありますので、今までこういうグループが出来てこうやって実は活動していましたという事で、更にこういう風に向けていきたいと思っているんだけど、それが今、なり手が居なくて出来ませんので応援してくれませんかという呼び掛けとかも入っても良いのかなという気がしますし、後はこの前の雑談の中でも出てきましたが、漬物の話して「厚田漬け」みたいな物を作ってみようという話しも

あったかと思いますがこんな話やあんな話しも出ましたという事で、これは皆さんどう思いますかというような感じの呼び掛けとか問いかけみたいな形にするのかなと思う訳ですが、その中で今までやって出来てきたグループを皆がどう思っているのかというのが凄く気になるので聞きたいなと思う訳です。

渡邊副会長： まずはそういう冊子を作るのはどうでしょうかという提案になりますので、中身についてはそれを作るとなつてからの話しであり、決まった段階で皆さんの意見をいただいて良い物を作っていけば良いと思う訳ですけれども、まずはその前段としてこういう冊子はどうですかという事だと思います。

佐藤会長： そういう事です。ですから中身はこれから検討する訳で、10年間のまとめとして皆でアイデアを出し合つて作るという事で、そうなれば今度は大体どれ位のボリュームでそれによって予算も決まり、そうすると予算やボリュームが大体決まりますと中に載せる中身というのは精選されるからという手順か段取りかという事なので、まずは色々なイメージがあると思いますけれども、要するに10年を境にして一旦、作っておきましょうという事になりますか。

柴田(肇)委員： 正にその通りだと思います。渡邊副会長が先ほど言いましたように、法で定められて10年という事ですから、そこで一区切りしてやった事の意味ですとか、それによってやった事がどういう風になったのかという事をきちんとまとめなければ駄目だと思いますので、今後、更にその5年先、10年先を考えた時に厚田区としてこういう場が何もなくて、そのままだにしておいて上手く動いていくのかというのを考えた時に、やっぱり町内会などの意見も吸い上げながら皆の意見を聞き、もっと良い方向にという事でこういう事が無いと益々難しくなってくると思いますので、そういった意味でも10年を一つの足跡としてきちんと集約し、次に向けてどうするかという指針を作らなければならないと思いますし、現に活動している団体もある訳でそこも総括みたいなのは必要ですし、それによって厚田に来る人は相当効果があったと思いますので、その辺の区切りとしてする必要があると思います。

小笠原委員： 今までの話しを聞かせてもらつて、総括という意味では今かなと自分では思った訳ですが、その時に中身として一つ要望がある訳ですが、厚田区だけではなくて、浜益区にもある訳ですので、そこ一緒に形なんかで浜益区の情報を知りたいなという部分もある訳で、そんなのもうかなと思っています。

佐藤会長： 同じ自治区ですが地域によつても全然違うと思いますし、札幌からの物理的な距離もありますし、中央バスなどの交通の便などの色々な課題を抱えておりますけれども、こういう課題は少子高齢化すると、何年か遅れで厚田にも訪れると思いますので、先ほどのリラックスタイムの中で小山委員も言っていましたけれども、京都府の話しの中で京都府は府ですが、悩みはやっぱり同じようにありまして、過疎化しているところは先進地でありまして、そこがやはりそういうノウハウや何かを持つ訳で、その冊子というのも結局は将来に対して黙っていたら無くなってしまうような村でも、将来の夢を託せるようなものをその中にもし込められれば、例えば、やまどりなんかも将来の夢ですが、これは非常に先進的だと思う訳ですが、だけでもそういう事を考えさせてくれるところは今のところ

無い訳で、やまどりの会でも一生懸命やってくれてはおりますが、これはライフサポートよりも地域の人達が良く知らない訳で、これは地域にとってはやはり夢であるので、そういう事を載せてという事でこれからの夢を載せて、ここに住む住民だったらこういう事がしたいよなと思わせるように出来れば良い訳ですけれども、出来るかどうかは解りませんが、皆さん達のご意見でそういう物を10年の区切りとして一応、作ってみようという事でよろしいでしょうか。

【委員一同了承】

相原主幹： 今日の資料についての説明を私の方からさせていただきたいのですが、今日の資料の中で、A4版の図のような資料があると思いますが、これは事務局の方で作成したものとなりまして、この考え方を少し説明したいと思います。

これは私共の市から見た感じになっておりますが、住民からのニーズとかを反映するのを簡易的に表したらどうかという事で考えた図となります。厚田区には他にもまだ団体とかがある訳ですけれども、この表の左側に地域協議会というのがありまして、右側に厚田区自治連合会があり住民からするとどちらの団体も住民の声を拾って反映させたいという想いはあると思いますので、その時に下からの矢印が住民からの考え方であったり、色んな意見であったり、要望であったりという事で自治連合会さん達がそれぞれ吸い上げておりまして、市の方へ提言をしたり、要望をしたり協働でこういう事をやろうという事でお話しをされると思います。この下から出ている矢印の中には、上の方に市と並んで議会というのがありますが、例えば、議員さんの方にこういう風にして欲しいんだという事でいく声もあれば、直接市の方に届く矢印もあると思いますが、そこは今回は省略しておりますが一応、そういう意見は厚田区自治連合会さんなり、地域協議会がそれを吸い上げて市の方へ提言をされるという事で、市の方で例えば予算化して実際に施策という形で住民の声を反映させるという事でこの図を考えております。この中で、前回の地域協議会でもお話しにあったと思いますが、特に自治連合会さんと地域協議会のお互いで住民の意見を吸い上げようという事で、色々働いている組織であると思い、今ままではこのところがそれ程多く意見交換がされていなかったのではないかという意見がありまして、そういう事で黒い点線でここをもう少し連携をしていってはどうかという事で、今回、五連さんで会議をしている事もありますので、顔合わせを含めて意見交換が出来ればなという風に考えておりまして、そういうところでこの図を考えてみました。

佐藤会長： はいありがとうございました。ここで5分程度の休憩時間をもらい、その後5連の方々に座談会形式で出席していただく形したいと思います。

6. その他

平成26年10月30日（木） 18:30 ～ 望来コミセン みなくる ホール

7. 閉会

平成26年10月30日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会 長 佐藤 勝彦